

平成29年度

赤い羽根「ポスター」デザイン・「標語」審査講評

審査委員長 先崎民憲 (佐賀美術協会 理事長)

[応募作品全体の講評]

標語の部 1097点、ポスターの部 119点の応募がありました。標語の部は応募数がかなり増え選考に苦慮いたしました。

赤い羽根共同募金会の主旨が県民の皆様にはすっかり定着していることもあり、ほとんどがわかりやすい作品ばかりでした。わかりやすいということはポスター・標語にとっては大事なことです。このことに加え強く印象に残るものが必要です。なかなか難しいことですが、過去に無いようなインパクトのある作品を期待したいと思います。

また、郷土色を出すことはよいことですが、あまりにも一部の地域に限定した作品作りは一考を要するようです。

[ポスターの部 最優秀賞作品に対する講評]

小学生の部、中学生の部、高校生の部、一般の部のそれぞれの部で最優秀賞を選考いたしました。郷土色豊かなものということで、郷土をモチーフにしたものも多数あったのですが、単に登場させるだけではなく、どのように工夫するかが問われているように感じられました。

小学生の部では子供らしい生き生きとした表現に好感を持ちましたし、中学生の部では希望を感じることができました。高校生の部は郷土色にあふれた楽しいポスターで、一般の部は白地に赤い羽根が印象的でした。この4点の中で審査員の先生方に一番好感を与えた有田工業高等学校定時4年の大坪 薫さんがグランプリとなりました。

[標語の部 最優秀賞作品に対する講評]

最初にどういう言葉で始めるかで受け取る側の印象も随分違って来るのではないのでしょうか。

小学生の部、中学生の部、高校生の部、一般の部ともに、それぞれよくまとまっており最優秀作品と入選作品の差もほとんどないように感じました。

その中で「笑顔咲く」という言葉が明るく印象的で、後に続く言葉もその主旨がよく感じ取れ、鳥栖高等学校1年の永利友二郎さんが最優秀賞となりました。他にもそれぞれに気持ちのこもった標語が多数見受けられました。